



# 物流ニュース

NO. 98

2012年5月

## 流通 BMS が物流現場に及ぼす影響

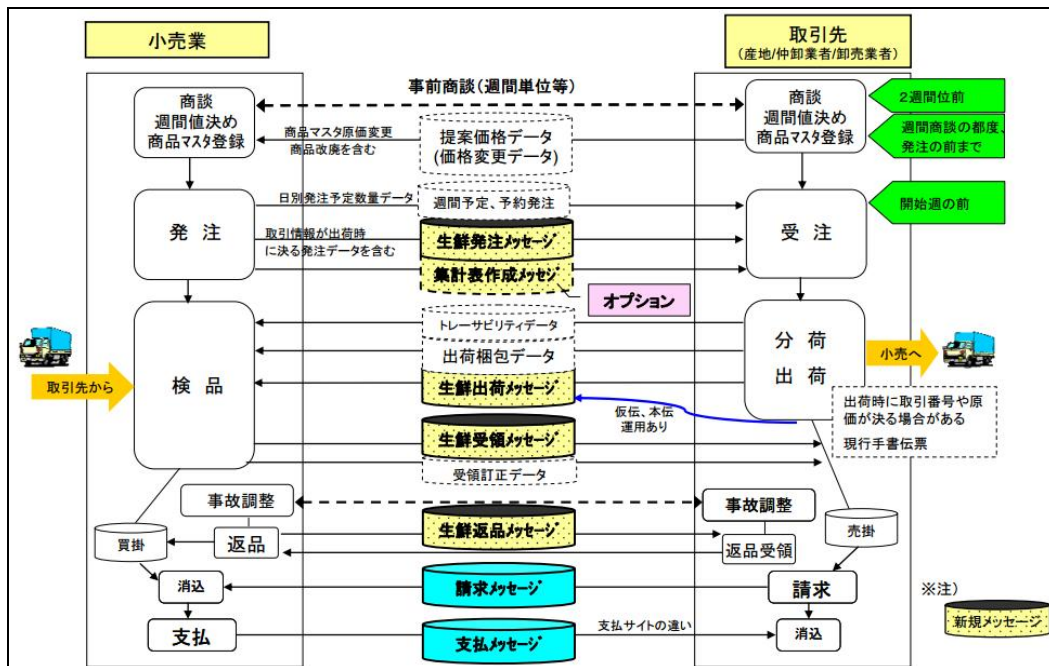
### ● はじめに

スーパーやショッピングセンターへ出かけると、店舗には魅力的な新商品が豊富にディスプレイされており、消費者の購買意欲は刺激される。このような、普段見かける適切に在庫管理されている商品陳列は見慣れた光景である。しかし店舗の裏方における小売店が取引先に対して商品を発注し仕入を行う仕組みについて、日常生活において意識することはほとんど無いであろう。実は、ここ数年間における小売店と取引先の商取引において、商品の受発注情報ネットワークは劇的に変化した。

そこで本稿では、流通 BMS (Business Message Standards) の定義および流通 BMS が制定された背景を紹介し、流通 BMS が物流現場に及ぼす影響を考察する。

### ● 流通 BMS とは

初めに流通 BMS の定義を確認する。ロジスティクスビジネス平成 23 年 7 月号によれば、流通 BMS は「流通ビジネスメッセージ標準」の略称で、受発注や出荷、受領、請求、支払いといった企業間の商取引に関する情報を電子データ交換 (EDI : Electronic Data Interchange) するための方式の一つである。



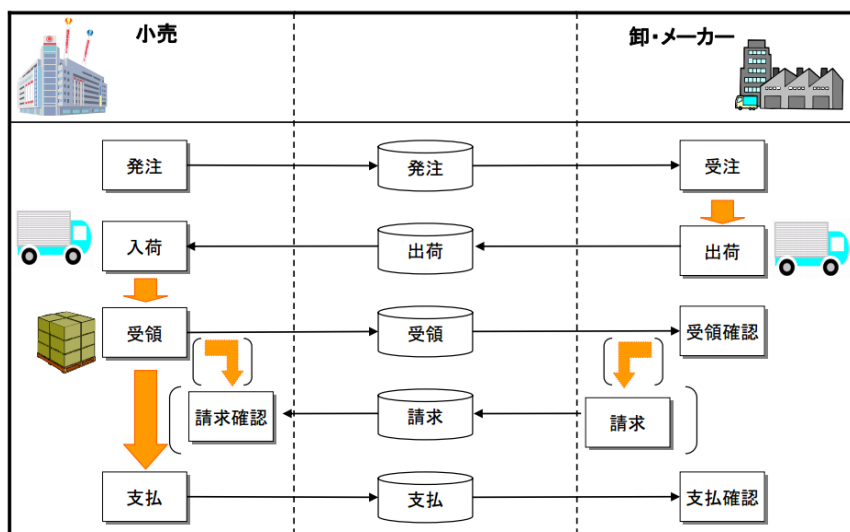
図表 1 平成 19 年度 流通 BMS 生鮮 Ver1.0

(出所：平成 20 年度 経済産業省委託事業 流通システム標準化事業 普及説明会テキスト)

経済産業省や日本チェーンストア協会（JCA）、日本スーパーマーケット協会（JSA）などの業界団体に加盟する企業が中心になって平成19年4月に流通BMSを策定した。流通BMSの事業化におけるコンセプトは、「業種・業態を超え、ユーザー自らが作り、ユーザー自らが使い、ユーザー自らが維持管理するユーザー主体の新標準の策定」である。流通BMS協会のホームページによれば、平成24年4月1日現在、流通BMSの導入について社名を公開している小売業は121社、卸売業・メーカーは174社であり、大手企業を中心に流通BMSが普及していることが読み取れる。

図表1に平成19年度流通BMS生鮮Ver1.0を示す。平成20年度 経済産業省委託事業 流通システム標準化事業 普及説明会テキスト（以下、経済産業省）によれば、図表1は生鮮食品を対象にEDIを実施するための要件を反映した生鮮発注、生鮮出荷などからなる流通BMS生鮮Ver1.0の概念図を示している。図表1よりデータ項目の標準化がやや困難な生鮮食料品に対しても流通BMSは対応していることから、実務的な一面を理解できる。

図表2にターンアラウンド型受発注業務モデルを示す。経済産業省によれば、ターンアラウンドとは「行って帰ってくる」という意味である。オンラインの発注データは取引先で複写式の統一伝票に印刷され、その伝票は仕入伝票として小売業に戻ってくることを表している。発注時に小売業が指定した取引番号をキーに、納品数量の訂正や受領情報の共有を行うことで、請求・支払業務の効率化・正確化を図っている。図表2より、流通BMSは、小売業と卸・メーカー間で受注・出荷・受領をやりとりするターンアラウンド型受発注モデルを前提としており、小売および卸・メーカー間において情報の往来によるスムーズな受発注業務の実現を狙っていることが分かる。



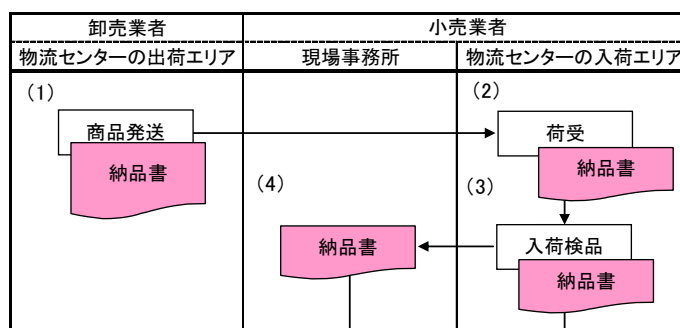
図表2 ターンアラウンド型受発注業務モデル（出所：経済産業省）

## ● 流通BMSが物流現場に及ぼす影響

ここでは、最も一般的な物流センターの現場作業に絞り込み、流通BMSが物流現場に及ぼす影響について考察する。流通BMSが物流現場に及ぼす影響として、「ペーパーレスの推進、データ処理時間の短縮、システム投資の低減」の3つの着目点を紹介する。

初めに1つ目のペーパーレスの推進について紹介する。ペーパーレスの理解を深めるため、図表3に紙の納品書を用いた入荷検品作業フローを示す。図表3においてピンク色の納品書は、卸売業者が発行する紙の帳票であり、支払法人コード、発注者コード、取引番号、商品コード、発注数等が印刷されている。図表3の(2)において小売業者の作業担当者は、物流センターの入荷エリアにて納品書を手に取り、紙ベースの納品書に記載された文字や数字を確認する入荷検品作業を行う。

このような現場においては、入荷検品作業において目視による読み間違いが発生する可能性があり、作業効率も低下する。加えて、作業終了後に伝票を綴る手作業が生じ、最終的には帳票を廃棄する手間も発生する。中小企業の小売業者では大量の紙伝票を用いて入荷検品作業を行っている現場もしばしば見られる。一方、大手企業の小売業者は、EDIによる受発注業務およびハンディ端末とバーコードを用いた目視による文字と数字の読取りに依存しない入荷検品作業が一般的である。今後、広く中小企業にまで流通 BMS が普及すれば、ペーパーレスの推進による物流の効率化が期待できるであろう。



図表 3 紙の納品書を用いた入荷検品作業フロー（出所：各種資料より著者作成）

2 つ目として、データの処理時間の短縮が挙げられる。光回線を利用することにより、従来の電話回線と比較すると短時間なデータ送付が可能であると報告されている。このデータの処理時間の短縮は、現場においてはデータ処理の後工程である出荷作業時間を長く確保できることを意味する。これは現場作業量の平準化に大きく貢献し、特に作業担当者が 100 人以上在籍する大規模な物流センターでは時間短縮は極めて大きな意味を持つ。

3 つ目として、システム投資の低減に関して、将来的に物流に関する情報システムの投資額の抑制が期待できる。業界で標準化されたデータ項目を用いるため、情報システム導入時のカスタマイズに関する工期の短縮および費用の削減が期待される。

以上より、ペーパーレスの推進、データの処理時間短縮、システム投資の低減の 3 つの視点から流通 BMS が物流現場に及ぼす影響について考察した。

## ● まとめ

流通 BMS は経済産業省主導のもと、流通業界が一丸となって取り組んだ次世代の EDI 標準であり、ここ数年で大手小売店を中心に普及した。流通 BMS が物流現場に及ぼす影響として、ペーパーレスの推進、データの処理時間短縮、システム投資の低減により、物流現場の効率化が期待できるであろう。

今後、物流現場を抱えるメーカー、卸売業および小売業において、ここ数年間で広く浸透した流通 BMS に関して柔軟に対応することが求められる。

## KEY WORD

### EDI

EDI は Electronic Data Interchange の略。企業間における電子的なデータ交換の仕組みである。商取引に必要な情報をあらかじめ決められた書式とし、ネットワークにより電子的に情報を送受信する。特定企業間で利用する場合もあるが、業界ごとに標準を制定して幅広い企業間取引にも利用されている。物流分野では物流 EDI 標準 JTAN が国内統一の汎用標準である。  
（出所：ロジスティクス用語辞典 日通総合研究所[編]）